

2018年にオープン予定の注目スポット

●2018年にオープンする新スポット

有楽町一丁目に建設中の『東京ミッドタウン日比谷』や、ロボットが受付業務などを行う『変なホテル東京銀座』をはじめ、2018年も話題となりそうなさまざまなスポットが誕生します。

今回は、年始恒例の〈変わるTOKYO地図〉新春版として、2018年にオープン予定の新名所についてみていきます。

●生産性と娯楽性を向上させたロボットホテル

観光客で賑わう「築地」駅から徒歩6分(「新富町」駅徒歩2分)の地に、今年2月1日、ロボットが接客する『変なホテル東京銀座』が開業します。『変なホテル』(H.I.Sホールディングス)は、2015年7月にハウステンボス(長崎県佐世保市)に誕生したローコストホテル。“変わり続けるホテル”をコンセプトに、フロント業務や荷物運びをロボットが行うことで、「世界初のロボットホテル」としてギネス世界記録認定も受けました。根底には生産性の向上や高効率化がありますが、女性の姿をしたロボットや、恐竜型、ポーターロボット、卓上ロボットなどが宿泊客を楽しませ、客室のカギは顔認証システムでキーレス滞在が可能など、最新のテクノロジーを駆使した設備と、わくわくさせるエンターテインメント性で注目を集めています。

現在は、千葉県・舞浜と愛知県・蒲郡市、東京・西葛西にも同様のホテルを開業しており、今後、2018年2月1日開業の東京・銀座を皮切りに、4月には『変なホテル東京浜松町』、7月に『変なホテル東京浅草橋』、『変なホテル東京赤坂』、9月に『変なホテル東京羽田』と、東京都内で続々とオープンが予定されています。

●国際ビジネスと芸術文化の街に新たな複合タワー

桜の季節には日比谷の再開発エリアに『東京ミッドタウン日比谷』(3月29日開業予定)が誕生します。日比谷

公園の東側、日比谷通り沿いの有楽町一丁目に約10,700㎡の敷地があり、地上35階、地下4階建て延床面積約189,000㎡の建物が建設中で、オフィス・商業などが入る大規模複合開発施設となります。

日比谷公園を眼下に望むオフィスフロアは、9・10階のロビー階から11階～34階に位置し、「Business Hospitality(ビジネス・ホスピタリティ)」をコンセプトに、先進的な機能やサービスで柔軟なワークスタイルを実現するとのことです。

さらに「(仮称)日比谷ビジネス連携拠点」(6階)ではベンチャー企業や大企業等、多種多様な人材が集結したコミュニティを形成し、ビジネス支援の場の提供や、新産業の創出を支援します。

商業フロアには、日比谷公園の眺望を活かしたレストランやライフスタイルショップ、11スクリーン約2,300席のシネマコンプレックス「TOHOシネマズ 日比谷」など全60店舗(店舗面積約18,000㎡)が地下1階から地上7階に出店予定です。

●渋谷川沿いに“渋谷のオアシス”が誕生

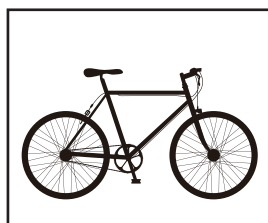
同じく大規模再開発が進む渋谷では、昨年オープンした『渋谷キャスト』に続き、今年秋、地下化された東急東横線「渋谷」駅と線路跡地に『渋谷ストリーム』がオープン予定です。地上35階、地下4階の建物が建設され、オフィス、シティホテル、商業施設、イベントホールなどが開業予定。また、渋谷の再開発エリアに複数計画されているエレベーターやエスカレーターで地下から地上を貫く空間「アーバン・コア」も新設されます(既に一部使用可能)。

2020年の東京五輪に向け、建設ラッシュに拍車がかかる東京。2018年は、今回ご紹介した施設の他にも『日本橋高島屋S.C.新館』(9月)、『豊洲市場』(10月)など、多くの魅力ある新スポットが誕生します。

COFFEE BREAK

コンビニでシェア自転車

大手コンビニと通信会社が手を組み、コンビニをシェア自転車の貸出・返却の拠点とする事業が始まっています。昨年11月頃からスタートし、現在は新宿区や渋谷区、練馬区、港区など都内で設置店舗を拡大中。2018年度末までに首都圏など1000店単位の店舗でシェア自転車が設置されます。シェア



自転車は、好きな場所で借りて好きな場所で返却できるため、観光客やオフィス街の会社員などに人気のサービス。シェア自転車の拠点がコンビニなら、ついでに買物をする利用者も多く、売上アップが見込める上、店舗数の多いコンビニが拠点となることで、シェア自転車の普及にもつながりそうです。